

神の武具の仕組み

エペソ人への手紙 6章 14節 後半～17節

では今日、主が私たちにご用意された「エペソ 6章」14節の最初の3つの御言葉から始め、17節まで見ていきます。私がお読みしますので、可能な方はお立ちください。無理な方は座ったままで結構です。聖霊によって、使徒パウロがエペソの教会に宛てて書いています。14節、

－エペソ 6：14－

そして、堅く立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、

－エペソ 6：15－

足には平和の福音の備えをはきなさい。

－エペソ 6：16－

これらすべての上に、信仰の盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢をすべて消すことができます。

－エペソ 6：17－

救いのかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち神のことばを取りなさい。

一緒に祈りましょう。

愛する天のお父様。私たちの前にあるこの箇所は、敵が私たちの気を逸らせ、あなたが語られる事を聞かせないよう全力を尽くします。御霊が私たち、あなたの教会に語られる事へ聞く耳を与えてくださいますように。ですから、主よ、あなただけが御出来になる通り、私たちがあなたに集中できるよう助けてください。敵が私たちの気を散らせたり、あなたが今日、御言葉の中で私たちにご用意しておられる事以外のもの

に思いを向けさせないようにしてください。主よ、お語りください。あなたのしもべは聞いています。イエスの御名によって。アーメン。

お座りください。ありがとうございます。

では、今日は、神のすべての武具についてお話したいと思います。神のすべての武具です。もっと詳しく言うと、神の武具が、実際どのように機能するかについてです。

覚えておられるかもしれませんが、パウロはエペソの人たちにこの手紙を書いた時、ローマの監視下にいました。おそらくパウロは聖霊に導かれ、この武具の興味深い例えをしたのでしょう。ローマの守衛たちが武具を全て身に着けていたのを、彼は見ていたはずで、彼は聖霊に導かれ、私たちの霊的戦いにおいて最高の例えをしました。

神が私たちに与えられた神の武具に関して、霊の領域において私たちが備えられるよう、また悪魔の攻撃に対抗できるように。この箇所を楽しみにしてきて、こんな風に言いますが、この箇所に向かって、敵は、---だからあのよう祈ったのですが---

私が単純明快に教えることができないよう、個人的にありとあらゆることをしてきました。ですので、細心の注意と祈りをもって取り組みました。神の武具とその仕組みについて、全力でお教えしますので、皆さん忍耐くださるようお願いいたします。武具のそれぞれの面を象徴的に見始めると、私たちのクリスチャン生活のあらゆる面で、実際に当てはまるのが分かります。それぞれの武具の説明と、その実際的な適用を

まず見ていき、その後時間を取ってそれぞれもう少し深く見ていきたいと思

います。先ほど賛美していた時、またこの第一礼拝前の祈り会でも主に尋ねたのは、神の武具の2つの側面の重視点です。この2つは、その他のものよりも時間をかけたい

のですが、それ以外の武具が重要ではないと言っているのではありません。しかし主

は、神の武具に関して特にその 2 つの真理を私の心に置かれました。今日はその事を分かち合いたいと思います。私の願いで祈りは、私はいつも、私自身を含め私たち皆が、主が私たちに知ってほしい、見てほしいと願っておられることを、より良く理解することができるよう、いつも見る目と、聞く耳、受け取る心を持てるようお願いする事です。私が本当に信じる事は、これを言うとき、皆さんも同意されると思いますが、皆さんは、今日ここにおられるのは、神が、皆さんの人生に語られることを聞くためここにおられるのですよね？ 神の御言葉を共に学ぶ時間を無駄にしたくないはずですよね？ ですからさっさと取り掛かりましょう。皆さんついてきていますか？

じゃあ始めましょう。神の武具がどう働くのか。

まず、真理の帯。これは、腰に締めることで、全てを然るべき場所に備え、惑わされないようにします。パウロが列挙する神の武具の順序に留意ください。ここ（真理の帯）から始まる必要があります。これが全てを適所に保ちます。まず、真理の帯が正しい場所に配置されると、次に正義の胸当てもまた、正しく配置されます。これは重要な器官を守る働きがあり、おもに心臓です。大変重要です。この部分は、後ほど時間をかけてお話ししたいと思います。3 番目の武具は、興味深いことに履物です。これに間違ったイメージを持たないで下さい。特にハワイに住んでいる皆さん。これはビーチサンダルではありません。これは、しっかりと足を固定し、固い土台と確かな歩みを提供する履物で、完璧なものです。なぜなら、これこそ、福音が私たちになすことだからです。次は、信仰の盾です。これには興味深い説明があって、頑強な防御として「これらすべての上に」取る必要があると書かれています。実際に、これらすべての上にとというのは、他でもなく敵の火矢を消すのです。皆さん、この事を理解す

る必要があります。敵は、先端に火がついた矢を放ち、火をつけます。ですから、盾を水に浸します。その炎の矢が放たれた時、実際に火を消し、その矢から身を守ることができます。次に、救いのかぶと。これも、時間をかけて説明したい2つ目です。これは思考を守ります。思いです。そして最後は、ところでこれは唯一の攻撃のための武具、御霊の剣＝神の御言葉です。両刃の剣よりも鋭く、魂と霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通します。

それでは、これらを詳しく見ていきたいと思えます。まず、真理の帯から始めます。何よりもまず、真理の帯はしっかりと定位置に締める必要があります。特に男性の皆さん、私のことを変な奴だと思わないでください。これはガードルみたいなものです。変な奴だと思わないでくださいと言った筈ですよ。これによって、身につけているものをまとめて締め、固定し、兵士たちがもっと自由に動けるようにします。ここで、もう1つ重要点、全ての武具は、真理の帯に繋がっていて、結び付いています。かぶとは、頭にかぶっていない時、帯の留め金にかかっています。御霊の剣は、帯の中にあります。剣というより短剣です。またすぐ後で話します。そして履物(サンダル)は、紐で縛って履き、上の方で帯に繋がっています。正義の胸当ては、ところでこれは一番重い武具で、重要器官を守ります。これは、ただの比喩的表現でなく、霊的にも同様です。これについて、この後見ていきますが。ですから、すべての武具が帯に繋がっています。すべてのものが、帯によって然るべき場所に留まります。使徒パウロが、帯が真理であると言ったのは非常に適切だと思いませんか？なぜなら、真理がすべてを保ち、結びつけているのではないですか？もしあなたに真理がないなら、すべてがバラバラになります。そうですね？だからまず、何よりも真理の帯を

正しい位置にしっかりと締めねばなりません。もしそれがなければ、他の武具どころではありません。ここに議論の余地はありません。それがなければ、他はどうにもなりません。全てのものは、何に結び付けられますか？ それは真理の帯でなければなりません。では、正義の胸当てについて話したいと思います。これも、然るべき位置になればいけません。繰り返しますが、一番重たい武具です。あるものを他のものより重要だ、とはあまり強調したくはありませんが、これは他のものよりも重要な武具の 1 つだと思います。理由は明白だと思います。火矢が心臓以外の部分に当たっても、まだ生きられる可能性はあります。仮に私の足に矢が当たっても、まだ生き延びられます。足を失うかもしれませんが、それでも生きていられます。でも、重要な器官の心臓に当たったら終わりです。敵はそのことを知っています。だからこそ、胸当ては正義に例えられます。そしてこれには 2 面あります。当然、そのおもだったものは、キリストの転嫁された「正義」です。私自身の「正義」ではなく、この意味は、キリストの「正義」です。しかし、それだけではありません。誤解しないでいただきたいのですが、自己義ではなく、正しい生き方です。意味を説明しますね。正しく聖いクリスチャン生活をする、それが私たちを守ります。このように考えてみてください。不義 = 無防備。重要器官が今や危険にさらされます。繰り返しますが、だからこそサタンは、私たちの人生の、特定の領域に火矢を放ってくるのです。私たちが正しく歩んでいて、私たちの歩みが主の御目にかなっているなら、聖なる大胆さと神からの御力が、セットで与えられます。「私は心からハッキリと知っている。自分が神と正しい関係があり、正しく生きていて、正義にある」と。それに伴うのは、「心の奥底にある強さ」です。だからこそ、敵は私を不義へと誘惑するのです。なぜ

なら、不義があるなら心臓を一撃できるからです。バン！（音）すみません。何人かの方起こしてしまいましたね。（笑）朝一の礼拝ってことは分かっていますが。敵が私を捕らえます。敵が私を捕らえます。それこそ、敵が狙う事ではないですか？ クリスチャンの「心臓/心」と、のちほどお話しますが、「思い」です。敵は、私たちが不義の中を歩むと、平安を失うと知っています。どういう意味でしょう？ 使徒パウロが「ピリピ人への手紙 4 章」で語る「人知をはるかに越えた平安」これこそが、私たちの心と思考を守ります。忘れもしませんが何年も前、本土で牧師をしていた頃のことをいつも例として使いますが、机を挟んで、キリストにある兄弟のカウンセリングをしていた時、彼は非常に苦労していて、こう言いました。「罪を犯すと、自分の祈りの生活に影響するのです。」だから私はこう答えました。「そこがポイントだよ。」

どういう意味ですか？ よく注意してください。こういう仕組みです。大変実践的です。サタンは「祈りが決め手」だと知っています。クリスチャンに祈らせないよう、サタンは出来る限りのことをしてきます。サタンが最も恐れているのは、『祈るクリスチャン』だからです。敵は、祈りが決め手だと知っているからです。では、彼はどうやってそれをしようとするのか？ サタンは、私たちを罪と不義に誘惑します。なぜなら、そうする事で、私が主と持っていた親密さと平安が断ち切られるからです。それらは義なる生き方に伴い、その生き方とは、誰も見ていない時にも同じ人であるということです。誰も見ていない時にも、義にあって、聖く生きることです。「わたしが聖だから、あなたがたは聖なる者とならなければならない。」（レビ 11 章）義の中を歩んでいるなら、私たちにはこの大胆さがあります。恵みの御座に近づくことができる、聖化された大胆さです。傲慢ではなく、自分の自信でもなく、自分の人生が義

にある確信です。「私は正しく生きている。」もしも、私が正しく生きていなくて、敵が不義の道へと連れて行くなれば、突如、私の祈りの生活が妨げられます。そのようにサタンは私を倒すのです。サタンは、祈りが決め手と知っているからです。ところで、主の御心なら来週は、武具の仕組みだけでなく、武具の着け方を話したいと思えます。武具の着け方、知っていますか？ ネタバレです。「祈り」です。「祈り」それで武具を着けるのです。私も実際、試したことがあります、複雑な祈りではありませんよ。毎日、一日を始める前に、祈りを通して神の武具を着けるのです。これは知恵だと思います。知恵です。祈ると・・・あ、来週の説教は今日しません。できますが、しません。まだです。再度、ここを強調しますが、これは自分の正義ではありません。そうだと不潔な衣です。これはイザヤ（64：6）の原文の意味ですよ。クリスチャンが正しく生き、純潔の中を歩む時に生じる正義です。純潔は力強いですよ。戦場に、---遊び場ではなく戦いです--- 正義と聖に生きる力を持って行くのです。繰り返しますが、だからこそサタンはいつも心を狙います。それが理由です。福音の履物(サンダル)のことを簡単に説明します。様々な理由で興味深いです。ローマ人たちが履いていたのは、鋭利な釘がついていました。スパイクを想像してください。興味深いのは、そのことを調べていた時、よく使う言葉ではありませんが、「靴を履く(shod)」という単語がありました。こういう風に使えます。「タイヤを履いた(shod)車」お～空欄を埋められますね。これには荒れた土地で、足元を強固にし、兵士の足元を安定させ、備えさせるという意味が伴います。繰り返しますが、これって福音が私たちに与えるものではないですか？ 戦いのただ中で、私たちを安定させ、備え険しい道を進むことができるよう、しっかりとした足元、それが福音です。福音の靴、平和の

福音の備え。それこそ、私たちがイエス・キリストの福音を伝える際、成功するものではないでしょうか？ ある解説者がこう書いていました。これは興味深いですよ。

「アレクサンダー大王とユリウス・カエサル両方の軍事的成功の大要因は、彼らの兵士たちが適切な靴を履いていたことにある。それゆえ、彼らは起伏の多い地形を驚くべき速さで長い行程を進むことができた。」底に鋭いスパイクがついたサンダルを履いているのを想像してください。それから紐。これらは足を保護するだけでなく、足元を固定させます。なぜか？ 転ばないからです。これこそ安定と備えを与える福音です。信仰の盾に入りましょう。興味深い詳細があります。パウロが「取りなさい/持ち上げなさい」と語る事に注目ください。ある翻訳では「これらすべての上に信仰の盾を取りなさい」とあります。そうすることによって、激しい矢 ---別の翻訳では「火矢」--- を消すことができます。「これらすべての上に(above all)」とはどういう意味でしょう？ 他の武具よりも重要なのでしょうか？ 違います。聞いてくださいね。神から与えられた想像力を働かせて欲しいので、図は見せません。神は、皆さんにパワフルな想像力を与えておられます。心の目で見てください。いいですか？ あなたは盾を持って、集団隊形を組んでいます。敵が火矢を放ちます。それが空中を飛んで、（おっとマイクから離れすぎました）集団隊形の「上に(Above all)」落ちます。その時彼らは何をするか？ 集団隊形全員が盾を自分たちの「上に(above all)」あげます。あるコメンテーターが表現するように「さねはぎ」のようになります。集団隊形の前列は盾を前に出して、互いの盾をカチッとつなぎ合わせます。するとどうなるか？ 突破不可能な要塞になります。火矢が飛んで来ても、突き抜けられないだけでなく、鎮火してしまえます。盾は、木と鉄でできていて、それを水に浸す事で、火矢

が飛んできた時、鎮火させます。この描写が想像できますか？なぜこれが重要かというと、木曜の夜、「詩篇」の学びでも話しましたが、これが、敵が最も成功している戦略の1つだからです。「敵は、吼えたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。」(1 ペテロ 5:8) 獅子の特徴の1つは、獲物に付きまとい、攻撃するのに最適な時を待っています。誰かが仲間や陣営から離れて、出て来るのを待ちます。もし自ら外れるようなら、あなたは救いようなし(Dead Duck)です。それも大文字のD・Dです。仲間から外れて、好きなように盾を構えることはできますが、それでは非常に脆弱です。だからこそ、サタンはクリスチャンを他のクリスチャン達から引き離します。ヘブル書に書いてあるように、クリスチャンがキリストの体である教会に集うのを止めるようにすることが、サタンの最も成果ある企みです。確か「エペソ」の学びでも先週話したと思います。救いのかぶとに入りましょう。これにも時間をかけたいと思います。その理由はすぐに分かります。繰り返しますが、この重要性を誇張したくはありませんが、軽視したくもありません。軽視することは、もっと大きな問題です。クリスチャンの精神的健康はあまり重要視されていません。思い(思考)です。「体、魂、力、「思い」を尽くして私たちの神、主を愛す」「思い」ですよ！思い(思考)に注意を払わないことが、キリスト教における無知を助長しています。パウロがコリントの教会に書いたことを思い出します。「サタンの戦略、悪巧み、策略に無知であってはならない。」これによって、サタンは多くのクリスチャンを捕らえています。サタンは思考を攻撃します。他の全ては忘れてください。戦場は思い(思考)の中です。理由は、思考が私たちを捕らえ滅ぼすことができる場所であるとサタンが知っているからです。こういう風に考えてください。私たちは神の似姿

に造られましたね。体、魂、思い。面白いですね。三位一体の性質。そういう意味です。思考なのです。サタンは私たちの思考を読むことはできませんが、アクセスはできます。「どういう意味ですか？」サタンは、私たちの思考に考えを置くことができるのです。サタンはこっそりとするので、私たちは、思考の土壌に種を植えたのが、サタンであると気づかないのです。そして気づかずに、それを受け入れ始めてしまいます。疑い。恐れ。心配。パニック。皆さん、空欄を埋められます。リストは長くなるはずですよ。

私の書齋に、ある本があります。不朽の価値がある素晴らしい本、参考文献です。著者は ウォーレン・ウィアズベで、因みに私は彼のファンです。タイトルは「サタンの戦略」この本から引用します。これに関して、彼はこう書いています。「サタンは、あなたの思考を攻撃する。思考は神に似せて造られた、神があなたと会話する場所であり、御心をあなたに示す場所だからだ。残念にも、一部のクリスチャンが、思考の重要性を過小評価するのは嘆かわしい。なぜなら聖書がその重要性を強調しているからだ。サタンがあなたに偽りを信じこませるのに成功したなら、サタンは罪へと導くために、あなたの人生で働き始める。だからこそサタンは思考を攻撃するのであり、だからこそ私たちは思考を、悪の攻撃から守らねばならないのだ。」そして彼は続けて言います。注意して聞いてください。「あなたの思考は、感情と意志に影響する。」それから彼は「箴言 23:7」を引用します。先週話しましたね。基本的に「人は、自分の頭で考えている通りの者だ。」私たちは、自分で考えた通りの者になっていきます。こういう仕組みです。サタンは、恐れ、疑いの種を植え付けます。すると突然、私たちは恐れを感じ始めます。次に何が起こるか、皆さんこの先はご存知のはず

です。「でも神は、恐れを霊を与えておられない。」と言われてますよね。それが真理です。けれども私たちは、思考を守る必要があります。それどころか、ローマ書12章の通り、「思いを新たにす」必要があります。洗脳されるのではなく。「神の御言葉、神の水で脳を洗う」のです。留意ください。かぶとを救いになぞらえています。なぜだと思いませんか？ サタンが最もすること、そして最も成功しているのは、クリスチャンに救いを疑わせることではないでしょうか？ 思考にその考えを置くのです。それが攻撃です。私たちは疑い始め、心配し、恐れ、恐れと不安で一杯になります。全ては、サタンが私たちの思考に置いた、全ての考えに捕らわれ、神の御言葉に従わせないからです。神の御言葉は真理です。私たちは話しましたね。もう一度繰り返させてくださいね。とても大切です。敵が考えを持ってきます。「待て！ 止まれ！ 動くな！」私は少し恐れ始めます。大抵こういう考えが始まります。「もし～～だったら・・・」お～ 私はこの言葉が嫌いです。皆さん、そう来ると、続きを埋めることができますね。「もしも・・・」私たちの思考って、最悪のシナリオをでっちあげる能力がありませんか？ 放っておくと、私たちは悪魔の思い通りになって、最終目的地にたどり着いてしまいます。考えられない、想像できない事に。「もし・・・だったら」もう1つは、「こうなったら？」です。「こうなったら？」正直に私自身のことを話します。皆さんが不快にならないと良いのですが、サタンは、他のどんな方法よりもこの方法で私に近づいてきます。率直に言いますが、それは私の人生のある領域で、敵はそれが何か知っています。自分の育ちのせいなのか、脳がそういう仕組みになっているのか分かりませんが、私はすぐに恐れたり、心配したりしてしまいます。とりわけ自分の子どもたちの事になると。サタンはそれを知っているのです。なので、こういう考

えを置きます。「子どもたちが、メールをしながら運転していたら？」「もし自動車事故で死んだら？」「既に子どもを1人亡くしているけど、もしまた別の子を亡くしたら？」サタンはどうやって私に近づけばいいか知っています。それこそ私の領域・・・結婚ではありませんよ。私の結婚生活はとても祝福されています。サタンはそこへ近づくことはしません。攻撃できないと分かっているからです。妻と私は1つですから。私たちの結婚の絆は強いです。サタンはそこにはしてきません。でも、子どもたちを通して近づいてきます。サタンはそのようにして私をやり込めようとし、考えを思考に置きます。私の娘は11歳です。「もしも・・・彼女が結婚する前に主が戻ってこられなかったら？」(お～～) —爆笑— ここで置いておきます。

毎回、神が私の証人です。私が結婚式司式をするたび、牧師として多くの結婚式をしますが、毎回、父親が花嫁とヴァージンロードを歩いて来て、「この花嫁を嫁がせる方は？」と話す時に、私は赤ん坊のように泣いてしまうのです。花嫁よりも牧師の方が、ティッシュが必要なんて情けないですよ。父親を見ると「将来の私の姿だ！」気分が良くなりました。心の重荷を下ろす必要があったのです。とにかくサタンは、そのように私の思考を攻撃してくるのです。様々な恐れに満ちた思い、「もし・・・だったら」や「どうなる？」という考えです。そしてそれが私の感情に影響する。なぜなら、「人は心で考えている通りの者」だからです。もう1つあります。皆さんに見てほしいのは、「第一テサロニケ5章8節」です。使徒パウロは、携拳に関する文脈で、非常に興味深い事を語ります。エペソの教会に書いた事をそのまま繰り返しています。

しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛の胸当て（正義の）を着け、・・・

そしてこう言います。

・・・救いの望みというかぶとをかぶり、身を慎んでいきましょう。

ちょっと待って。何て？そう、「救いの望みを、かぶととして」です。なぜこれを指摘するのか？これは、祝福された希望です。これが祝福された希望。何度も繰り返し言っていますので、皆さん飽き飽きしないといいのですが。私がこう言うのは大げさではないので、低く評価しないでほしいのですが、しかし、私にある希望は、ある日、あのラッパが鳴って、キリストにある死者が先によみがえり、それから、生き残っている私たちが、引き上げられ、携挙され、空中で主と会い、永遠に主と共にいます。

(I テサロニケ 4:16-17 参照) それが私の希望でなかったら・・・誇張ではありませんので、これを言う時、軽視しないで下さいね。私は文字通り気が狂って正気を失います。とりわけこの世の悪が日ごとに増大するのを目の当たりにすればするほど、ニュースや報道を見るのがどんどん辛くなります。消さずにはいられないのです。ついていけないのです。リサーチしていると・・・「正気を失うって言いました？」って顔をしておられる方がいますね。そんなような事言ったと思います。誇張はしませんが、その祝福された希望が私の正気を保っています。イザヤがこう言っています。「志（思いが主に）の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。その人があなたに信頼しているからです。」(イザヤ 26:3) 自分の思いを主に置き続ける必要があります。希望を主に置き続ける必要があります。あのラッパが鳴る日が来る。私は救われている。それが私を正気に保つ錨です。それがなかったら・・・これを考えてください。あまり深く考えず、でもそれがなかったら、私は気が狂います。

私たちにどんな希望があるのでしょうか？それが祝福された希望ではありませんか？イエス・キリストにある救いと贖いが。それこそ心待ちにすべきものです。それが私の未来です。それこそが、「エレミヤ書 29 章 11 節」では？「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。一主の御告げ—それはわざわいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」希望です。「人は食物や水がないと長く生きられないが、希望がなければ 1 秒とももたない。」と言われていています。私たちの思い・思考を守る、祝福された私たちの救いの希望です。最後に、これも大事なものです。「神の御言葉、御霊の剣」です。これはよく目にする長い剣ではなく、短剣です。ローマ兵たちが接近戦で使った、小さくて短い短剣です。なぜそれが重要なのか？理由は、これが唯一、私たちが言わば接近戦で戦うための攻撃用の武具で、私たちは、手にある、手の中にある、神の御言葉である御霊の剣を使って、戦うのです。この完璧な模範は、私たちの救い主が、悪魔に誘惑された時にあります。主はどうなされたのか？主は神の御言葉である御霊の剣を取って、使われました。接近戦で主は申命記を引用されました。それ自体が学びです。主が悪魔を打ち負かし、悪魔が逃げていきました。主は、神としてではなく、人としてこれを行われたのです。私たちにはその模範があります。人間の私たちもまた、悪魔との接近戦で悪魔に対抗し、勝利できるように。先週お話ししましたよね。これで締めくくります。私たちは、悪魔を打ち負かす必要はありません。聞いてください。私たちは悪魔を打ち負かす必要はありません。悪魔は既に敗北した敵です。私たちはただ、既に私たちのものである勝利の中を歩めばいいだけです。使徒パウロは、この武具の例えを通して、実際にどうすればいいか教えています。私たちも、神

の武具を全て身に着け、勝利の中を歩むことができます。全て準備万端である必要があります。それが私たちを守り、私たちには、決め手の攻撃的武具「神の御言葉」があります。祈りましょう。

天のお父様。心から感謝します。主よ、私が教えるのをあなたはご覧になりました。

私はベストを尽くしましたが、残りをあなたが聖霊によってあなただけが御出来になられる通り、あとを引き継いで下さいますように。そうすれば、私たちは人生で、非常に重要なこの領域で、これを実践出来るようになります。主よ。感謝します。

イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii 筆記 Ru